

濱口 二町合併して3年半、効率化で生まれた人員を専門性の高い仕事、更なるサービスの向上へ充てるとしていましたがその成果は。

市長 市の人口は8月末で5万2516人から5万4694人となり2千178人の増となっています。これに対し職員数は19人の削減を行っているがサービスの低下はさせないよう努力しています。組織の強化としては市長公室を新設し、各部署の日程調整、職場の連携調整を図っています。サービスの向上としては健康福祉部門で介護保険包括支援センターの設置、後期高齢者医療制度の充実、子どもの医療費助成制度の充実を行いました。産業振興部門では商工振興課を設置し、企業誘致、商工業の推進を図っています。

濱口 今後の組織の強化として目指す方向に対して政策的又意図的に新規職員の採用が図られていますか。

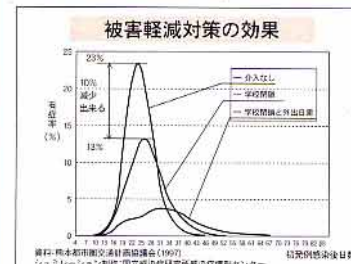
市長 限られた財源、陣容ですが、政策の重点化に重きを置いて人員配置をして行かなければならないと思っています。

っています。

新型インフルエンザ対応

濱口 新型インフルエンザについて3月議会、6月議会とフォローして来ましたが行動計画の策定状況は。

健康福祉部長 強毒性の鳥インフルエンザを想定して現在策定中です。行動計画の内容は国や県、菊池地域の計画と整合性を図り、合志市の現状組織体制や実情に合ったものとして計画です。大きく12項目に分けていますが主なものは①市民への情報提供②相談体制の確保③ワクチン接種体制の確保④治安の維持⑤学校・保育園等の臨時休業⑥医療提供体制の確保等を発段階別に分けて具体的な対応策を決め、災害対応と同様の形で計画し、10月一杯に策定をしたいという風に考えています。



合併して3年半 改革は進んだのか！

濱口 正暁 議員



来海 平成20年度9月議会です市長は、「医師会、薬剤師会とも相談しながら、市や市民の立場に立つて、後発医薬品の活用を始めていきたい」と答弁されたが、一年経ってどのような進んだのかを伺います。

健康福祉部長 具体的には、それから進んでいないというのが現状です。

来海 合志市が昨年、医療機関などに支払った研究費と調剤費は？

健康福祉部長 平成20年度の国保加入者全体の医療費総額、10割で4億9454万9千円（一人当たり34万3140円）、うち調剤費は4億8767万円（一人当たり3万9894円）で、全医療費に占める調剤費の割合は11・6%です。

来海 昨年国保の値上げがありましたが、前年度は半年度で400万円近い赤字が出ました。近いうちに国保の値上げが予測されますが？

健康福祉部長 現在の経済の機動的な状況を考えますと、即値上げということとは考えていません。この税率については、それまで延ばせるなら

ば延ばしたいと考えています。

来海 後発医薬品（ジェネリック医薬品）は、先発医薬品に比べて、薬の種類にもありますが割安で、効果はほとんど変わらず困りも利用を助めています。八代市や久留米市、また、共済組合でも、「後発医薬品希望カード」の配布を始め、カードを提示するだけで自己負担を節約できます。市の医療費の削減に繋がるこの取り組みを、合志市でも導入してはいかがでしょうか？

健康福祉部長 後発医薬品については、担当部署としても効果があると認識しており、来年3月の被保険者証の切り替え時にカードなどを作成・配布し、啓発したいと考えています。



保険証と同サイズの後発医薬品希望カード

県営野球場を！

池永 幸生 議員



池永 合志市に存在する九州沖縄農業研究センターに、現在熊本市にある県営熊崎台球場を移設できないか。広大な土地があり、駐車場確保や、スマートインターの構想上の利便性、市として取り組んでいる熊本電鉄の存続にも役立つと思われる。あの地は県有地であり、県の施設を造るのにも適していると思うが。

総務企画部長 プロ野球がホームとして使えるような県営球場ができれば、スポーツを市の特色にする素材の下地にもなると思われる。大量輸送が可能な電鉄やインター構想などで九州各県からの集客にも恵まれた交通環境の中にあると思う。しかし、市内に位置する施設ではあるが、九州沖縄の地域農業の問題解決の試験研究活動の拠点である。また、あくまでも県の用地であり、市としては慎重な検討をしたい。

池永 研究施設をどこか誘致している近隣の自治体はないか。一部を移設することで野球場の確保が出来ないか。また市民の施設活用は。

総務企画部長 阿蘇市長の公約の中

に高原農業の研究施設を阿蘇の方に持ってきて高冷地農業に役立たせるならばと述べられている。

市長 移転の問題もあるが、今までは閉鎖的に見えていた。現在では、農研センターとしてできるだけ市民に開放し、市から研究課題でも与えていただければ取り組みたいとの説もある。

池永 野球場も含め、あの広大な施設の素晴らしいさを市としても活用していただきたい。

市長 あの広大な土地を何とか合志市全体のまちづくりに活かさないかと思う。土地利用の視点からこの地を職住交流ゾーンに位置づけている。現状では財政的にも無理があるが、市の将来発展のためには、相談の条件の下に何かできればと思う。



九州沖縄農業研究センター正門

公共交通の充実と危機管理

尾方 洋直 議員



尾方 市民の移動が円滑な公共交通の課題に対しての審議の進捗よく、環状バス実証実験が12月末まで毎日6便運行されるが、ルート、時間割について市民の意見は聞かれたのか。

総務企画部長 5月に合志市の地域公共交通協議会を立ち上げ、策定に向けて6回の会議を行いました。市民アンケートまた、地区別意見交換会並びに企業へのヒアリング等を実施し協議会で決めています。今年から3年で各種の実証実験を行う中で議論を深めて公共交通体系を確立させてまいります。

尾方 パークアンドライドは現在、契約台数と、管理運営について市の取り組みを伺う。

総務企画部長 契約台数は2台です。大幅に予想を下回る結果です。これを踏まえ料金を変更したところですが、使用料を市が徴収すると、条例の制定が必要となり、実験期間中の管理運営は電鉄にお願いしております。

尾方 20年度に災害時の要援護者支援班を設置、先進地の視察を行いましたが、本市での取り組みは、また結果について伺う。

総務企画部長 システムの方向性を研修し本年度において社会福祉班と市長公室で計画の素案とシステムの方向性について現在検討分析を行っています。

尾方 子どもの危険な遊び場、通学路のチェックリスト作成と以前に質問した演習場の暗渠に子どもたちが遊んで危険であり、対策を願ったがどうなったか。

教育長 安全マップについては各学校ごとに作成をしてまいります。自衛隊演習場の暗渠につきましては対策を練って実施いたします。



黒石原演習場内の暗さ

『後発医薬品希望カード』の配布を！

来海 恵子 議員

